にしく市民活動支援センター
にしとも広場

人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

2016
6号

防災・減災を通じた
地域のつながりづくり

地域防災拠点訓練の様子

防災・減災を通じた

地域のつながりづくり

2011年3月11日あの日から5年が過ぎ、地域のきずな、人と人とのつながり、そして私たち一人ひとりの意識はどう変化したのでしょうか？

当時小学生だった子どもたちが中学生に成長しています。

今号では、中学生に焦点をあて、防災・減災を通じた「地域のつながりづくり」をご紹介します。

ボランティアを地域とのつながりづくりのきっかけに…

岡野中学校には、『ちょいボラ隊』というものがあります。〝ちょいボラ〟とは、「ちょっとしたボランティア」の略で、全校生徒が『ちょいボラ隊』の隊員となり、地域の活動やイベントを盛り上げる活動をしています。

『ちょいボラ隊』の活動は、かれこれ6年目になります。今ではその活動が町内会や自治会、福祉施設、行政機関などに広く認知され、年間20回以上も地域の行事に声がかかるまでになりました。『ちょいボラ隊』は、中学生が地域に関わる重要なきっかけづくりの場となっています。

『ちょいボラ隊』の活動は、中学生を成長させ、地域を活性化させています。この取り組みが将来どんな花を咲かせるのかとても楽しみです。

データ ～ 自助・共助 ～

阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大規模広域災害時の「公助の限界」が明らかになるとともに、自助・共助による「ソフトパワー」が重要なものとなっています。

6,400 人以上の死者・行方不明者を出した平成7年1月の阪神・淡路大震災では、倒壊した建物から救出された人の約8割が、家族や近所の住民等によって救出されており、消防、警察及び自衛隊によって救出された者は約2割であるという調査結果があります。

これは人命救助と消火活動を行政が同時に行う必要があったため、行政機能が麻痺してしまい、被災者を十分に支援できなかった一方で、近隣住民同士の助け合いが、予想以上に機能したと言えるのではないでしょうか。

内閣府 web サイトから改編 ↓↓
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/0b_2s_01_00.html

阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数

推計：河田惠昭（1997）
「大規模地震災害による人的被害の予測」
自然科学第 16 巻第 1 号参照。

地域とともに歩む学校に
地域に貢献できる学校に

西区には「地域防災拠点」が12ヶ所あります。その防災拠点である学校と地域がいかに連携し、防災・減災の取り組みをすすめているのでしょうか?

老松中学校の今辻校長と、羽沢東部自治会長で地域防災拠点管理運営委員長・大木本会長にお話を伺いました。

地域防災拠点訓練の様子

今から3年前のある日、今辻校長から「地域とつながりたいが、どうしたらよいか?」と、大木本会長に相談の電話がありました。このときから、地域と中学校が真の意味でつながるための対話と取り組みがスタートすることになります。

今辻校長は、東日本大震災が発生した年の8月、石巻で被災した中学校を訪問し、学校と生徒は地域住民のために動く必要があると痛感させられました。例年、地域防災拠点訓練を、一部の生徒と教職員だけの参加で行っていることに疑問を持っていました。

そこで、「いざという時に地域に頼りにされる学校・生徒」を目標に取り組み始めました。地域と直接つながることと、防災意識の向上を、せつに願っての第一歩でした。その土台作りとして、生徒が住む地域の町内会長との顔合わせや、生徒による学校便りのお届け、また、地域防災のための組織を再構築するなどして、生徒や教職員の意識の向上を目指していきました。

そして、ついに着任3年目の2015年、地域防災拠点訓練に約450名の全校生徒・教職員の参加を実現しました。

地域防災拠点とは…

横浜市では、身近な市立の小・中学校等を
震災時の避難場所に指定し、地域防災拠点としています。

地域防災拠点の役割

- 家が倒壊した方などの一時的な生活場所
- 食料・水・救援物資の配布場所
- 家族の安否確認場所
- 生活情報の提供場所など

西区の地域防災拠点はこちらから ↓↓
http://www.city.yokohama.lg.jp/nishi/life/bousai/bousai02.html

各自治会の活動内容や年間行事について説明する
大木本羽沢東部自治会会長（左）と高坂老松町内会会長（右）

背景には、大木本会長を中心とする防災拠点管理運営委員会や、全町内会の理解と協力、そして応援があったそうです。今辻校長は、『学校の気持ちを温かく受け止めていただき、大変心強かった』とおっしゃっています。

２０１６年１月17日には冬の防災訓練が実施されました。大木本会長は、『老松中学校がある第４地区は山坂が多く高齢化も進んでおり、大規模災害が発生したときには、非常に心細い。中学生が、防災訓練や地域のイベントにまじめに取り組んでいる様子をみると、やはりたくましく、頼もしい。』とおっしゃっています。

冬の防災訓練の様子

防災訓練に参加した中学生に聞きました。もし、災害が起こったら…

「高齢者や足の不自由な人、けがをした人などと一緒に避難できると思う。」

「ボランティアを通して地域の方と顔見知りになっているので、災害になったときに役立つと思う。高齢者の話し相手になれると思う。」

災害が起きた時、1日も早く教育活動を再開すれば、子どもたちは安心するし、地域の方も元気になる。

軽井沢中学校１年生の防災設備実施体験の講師のお一人は、地域防災拠点管理運営委員長、北軽井沢むつみ会会長の宮本さんです。

「自助・共助」をキーワードに、『中学生として自分のできることを積極的にやってほしい、中学生に期待しているよ』というメッセージを発し、中学生に自信をもたせ、勇気づけます。

大村校長は、「災害が起きた時、１日も早く教育活動を再開すれば、子どもたちは安心するし、地域の方も元気になる」という想いを強く持っていらっしゃいます。

働いている世代が地域に不在の、平日の昼間に地震が発生したときは、中学生が力になります。“地域奉仕活動”や“ふれあい☆みやがやまつり”を通じて、日頃から築いている顔見知りの関係が、いろいろな「必要」に、大いに役立ちそうです。

「学校は地域と共にあるもの、地域の子どもとしての認識を大切にしていきたい」と大村校長はおっしゃっています。

防災設備実施体験の様子（講師は宮本会長）

西区地域自立支援協議会「防災会議」

地域だけでなく、東北ともつながって備える

2009 年から始まった西区地域自立支援協議会（以後、「自立支援協議会」）は、西区に住む障がいのある人たちの1人ひとりの悩みに寄り添い解決につなげるだけでなく、それを地域の課題として考える仕組みです。

その部会・会議の1つである防災会議は、東日本大震災後の 2011 年8月に立ち上げました。3月 11 日の体験から、それぞれの施設がより顔の見える関係を築き、連携する必要を感じたからでした。区内を 5 つのエリアに分けてそれぞれのエリアで顔の見える関係を築くための仕掛けを考えています。今では年に3回、全体会を実施しています。

また、自立支援協議会の事務局を務める（社福）横浜共生会が、支援物資を届けたご縁で、2013 年9月には釜石・大槌障害者地域自立支援協議会とともに「姉妹自立支援協議会」として動き始めました。

震災から5年が経ち、支援する側・される側という関係ではなく、仲間として細く長くつながっていたいと願っています。状況は違うけれど、参考になる取り組みがあり、遠いからこそ話せることもあって、お互いに行き来し合いながら、情報交換を続けています。今後は、それぞれの職員・利用者が行き来できる関係を築くなど、さらなる連携に取り組みます。

昨年行った報告会の様子

西区地域自立支援協議会

TEL：045-250-6506
（地域活動ホーム　ガッツ・びーと西）
ホームページ：http://www.249style.org/

NPO 法人 かながわ３１１ネットワーク

自分の命を自分で守るための防災教育：負担感なく災害へ備える提案

かながわ 311 ネットワークは、東日本大震災の支援活動から始まり、ボランティアバスでは 2015 年3月までに 684 名が活動しました。「神奈川にも絶対災害がくる。だから備えてほしい」という被災地の方の言葉をきっかけに、神奈川で防災への取り組みを拡げています。

今年度は県と協力し、県内の小中学校にむけた『かながわ版防災教育プログラム』を作成しました。県内の都市部、沿岸部、内陸部の計 17 の学校へのヒアリング調査で聞いた声や、担当の石田さんの中学教員の経験を生かし「負担感なく継続できること」「大人不在でも、子どもが自分で判断し避難できるようになること」に重点をおいています。

教材は、お年寄りが歩く速さを基に、津波や火災からの避難ルートを作成する「逃げ地図」のほか「避難所運営ゲーム（HUG）」「災害想像ゲーム（DIG）」などがあります。

こうした教材は、学校での防災教育に限らず、地域での防災にも役立ちます。同団体では、教材の指導や訓練に参加して支援する「防災教育ファシリテーター」の育成にも取り組んでいます。どこで災害が起きても対応できるよう、地域ぐるみの備えに広げていく狙いです。

災害想像ゲーム DIG。
震度の高いエリアを塗っていきます。

NPO 法人 かながわ311ネットワーク

担当：石田
メールアドレス：bosaikyoiku@kanagawa311.net
ホームページ：http://kanagawa311.net/

説明会を随時行っています。
お住まいの地域で教材の体験もできますので、
お気軽にお問合わせください。

ふむふむレポートとは？：
主に西区内で活動するグループや団体、場所をスタッフが訪問し、活動の魅力や工夫、「なるほど！」と思う知恵をご紹介するコーナーです。

にしとも広場ってどんなとこ？

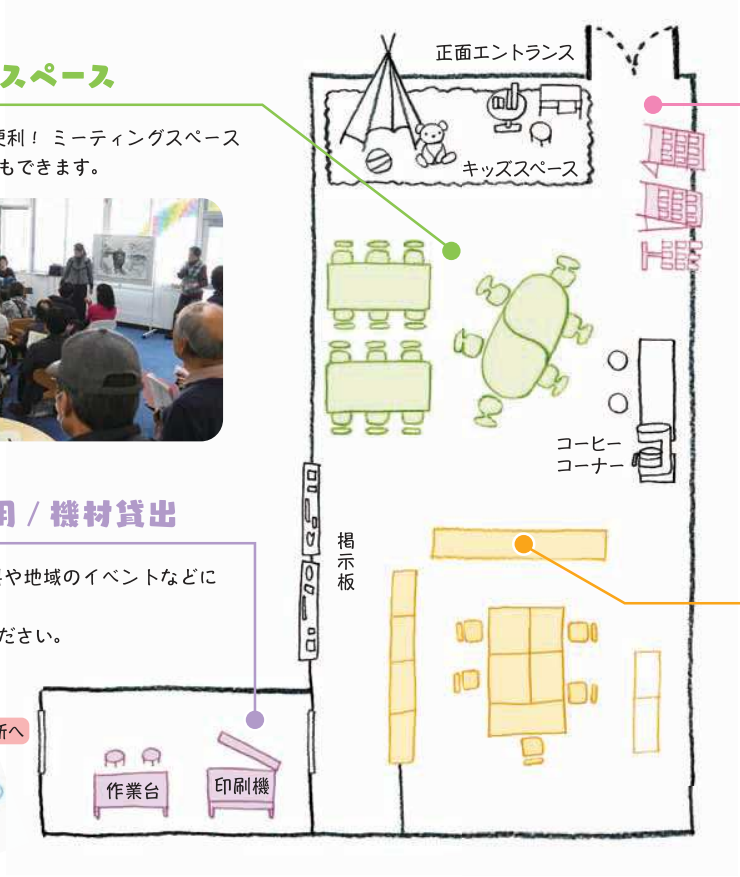
にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、「人と活動のつながりづくりを応援する」場です。“何か始めたい”“活動の場を広げたい”“活動に役立つ情報を知りたい”など、気軽にご相談できます。
新年度も始まります！にしとも広場を、ぜひのぞきに来てください。

ミーティングスペース

10名までの会合に便利！ ミーティングスペースを貸切ってイベントもできます。

情報コーナー / 展示スペース

地域情報が満載！随時 400 ～ 450 種類のチラシが、テーマごとに並んでいます。
作品や活動の紹介を行う展示スペースができました。



印刷機の利用 / 機材貸出

講座などの配布資料や地域のイベントなどにご活用ください！
詳しくはお問合せください。

コーディネート / 受付コーナー

スタッフにお気軽にご相談ください！
生涯学習やボランティア、NPO に関すること、「西区街の名人・達人」のご紹介など。

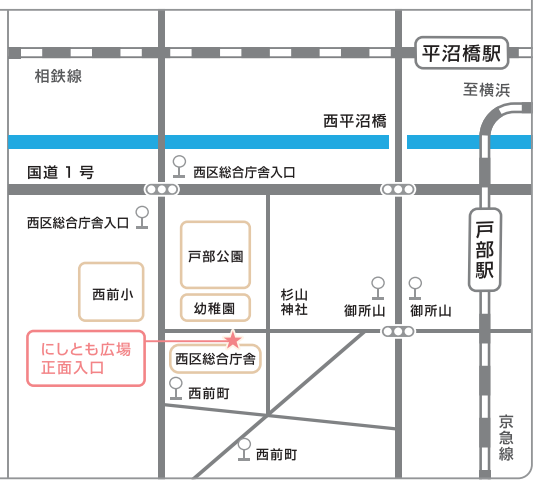
次号 Vol.7 は、7月に発行予定です。

“にしとも広場”のロゴマークができました！
ハニカム構造をモチーフとしたカラフルなロゴマークです。
それぞれの個性を大切に、支え合いつながることで、誰もが生き生きと暮らせる豊かな地域への思いを込めています。

にしく市民活動支援センター
にしとも広場

（管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま）

TEL/FAX 045-620-6624
Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/
住　所 横浜市西区中央1-5-10 区役所1階
開館時間 9:00～17:00
休館日：毎週水曜日・年末年始（12/29～1/3）
アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩 8 分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩 10 分



情報紙「にしとも広場」は、西区内の郵便局、地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設に配架しています。

配架にご協力いただける場合は、施設名や活動拠点を掲載させていただきます。ぜひご連絡ください！

企画会議メンバー：新井香奈さん（2014年度西区地域づくり大学校卒業生）、伊藤孝仁さん（多世代・多国籍交流スペース カサコ）、大木本一夫さん（羽沢東部自治会、子育てサロン カム・カム）、佐上智美さん（生涯学習ボランティア「西区街の名人・達人」）、中島まり子さん（ぐらんまのいえ）、永瀬誠さん（生活支援センター西）

発行：にしく市民活動支援センター“にしとも広場” 発行日：2016 年 3 月